

《原著》

新人看護師の職場適応への過程 － 5年目看護師の語りの分析－

中嶋 文子¹⁾, 赤澤 千春²⁾, 近藤 恵³⁾, ベッカー・カール⁴⁾¹⁾ 椋山女学園大学看護学部, ²⁾ 大阪医科大学看護学部,³⁾ 大阪医科大学中山国際医学医療交流センター, ⁴⁾ 京都大学こころの未来研究センター

抄 録

我々の先行調査では、看護師は就職後の3年間を通して高いストレス状況にある中で、ストレス対処能力も低下し、バーンアウトが進行していた。3年以上にわたって職場に適応し働き続けている看護師たちは、働く上での支えを見つけ、自分に適したストレス対処法を身に付けてきたことが予測される。彼らの適応の過程は、新人看護師のストレス対処能力を高め、職場適応を促す研修プログラムの開発に寄与することが期待できる。【目的】本研究の目的は、新人看護師が就職してから経験したストレス体験やストレス緩和法を通して、職場に適応していくまでの過程を明らかにすることである。【方法】調査期間は平成25年6月から平成26年3月である。平成22年度に入職し、調査期間現在も同一施設で就業していた看護師11名に対し、半構成的面接を行った。データはテキストマイニングソフト Word Miner for Windows Ver.1.1を用いてサブカテゴリーを作成したのち、質的統合法（KJ法）によってカテゴリー化した。【結果】各調査対象者の語りからは、6から10のカテゴリーを抽出し、続いて全員の85のカテゴリーを統合し、質的統合法（KJ法）によって分析した。結果、7つのカテゴリー【新人看護師教育システム】【新人看護師にとってのストレス】【ストレス対処方法】【看護師継続の原動力】【看護師としての今の自分】【配属部署の特徴と勤務体制】【新人時代の生活環境】と18のサブカテゴリーが抽出された。【結論】就職間もない時期は、業務の前提となる学習課題や質問しにくい職場風土、報連相の難しさ、リアリティショック、早期からの夜勤の開始などがストレスであり、生理的欲求の充足と人的資源の活用がストレス対処法であった。そして、患者の回復や、先輩・同期の支援、モデルとなる先輩の姿、看護への愛着、過去の失敗経験などを支えとして看護師を続けていた。職場に適応した看護師は、役割を得て拡大する視野や対人関係の改善、仕事上のストレスの質の変化を自覚し、看護師としての成長を実感していた。看護師の職場適応を促すためには、人的環境の整備や、ストレス解消法を見つける支援だけでなく、自らの成長を実感することへの支援が必要である。

キーワード：新人看護師、職場環境、適応、ストレス対処、職業継続、語り